大正八年三月七日
第三種郵便物認可

昭和六年八月十九日　THE IWAKIJIHO　（水曜日）　（第五千二百六十五號）　（一）

十八夕
日刊

磐城時報

編輯兼發行人　岡田弘成
印刷所　福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字金五拾錢
▲日刊（月曜、祭日）休刊

四倉港修築寄附金
負擔金輕減陳情
町民の調印を取纏め中

騷ぎにもみ抜いてる四ッ倉町は一部町民があくまでも強硬な態度で町當局を糾彈し續けてゐる漁港修築計劃當初地元負擔金は十萬圓であつたものを縣と再三折衝の結果ヤット七萬圓で折り合ひがつき、これでさへ重負擔としてゐた矢先き今度は十八萬五千圓といふ莫大な寄附金を課せられ一戸平均にすると百八十圓となるのでこの過大な負擔は目下この不況の時節柄町當局が如何な方針で起債償還策を講ずるとしても絶對不能事であると近く縣に負擔輕減の陳情書を提出すべく目下全町民の贊成調印を取纏めてゐる。

藥劑士代議員
瀧田氏に決定

本縣藥劑師會總會は十五日午後一時石城郡小名濱吉田屋別館で開催、日本藥劑師會代議員改選の結果郡山市瀧田德藏氏當選終つて懇親會を開き午後七時散會したが、明年度總會は郡山市で開催することに決定した。

▲知事から表彰

双葉郡久之濱町北町土木請負業瀬戸捻（二九）は去月二十二日午後三時五十分頃石城石住村地内で自動車墜落の際重傷者を救助し知事から表彰された。

石城地方産業組合
經營難で休業續出
最近に五組合閉鎖
當局で善後策協議

石城郡内の産業組合は二十六組合に達し相當の成績をおさめてゐたが、最近に至り大野信用購買組合も經營難に陷りより休業するに至つたので當局でしからず休業する組合が續出しは狼狽し二十日午後一時から大昨年暮から本年春にかけて草野野村役で善後策を協議する事に信用組合外三組合が閉鎖の止むなつたが、石城地方に休業銀行なきに至つたので石城部會で頭を絞ましてゐたが、最近に至りが續出して以來産業組合が金融機關として重きをなすに至つた今日に於て休業組合が續出するので一般でも警戒を怠らぬ狀態である。

赤井村長選擧
若松氏か草野氏

石城郡赤井村長根本忠治氏は來る九月十二日滿期となり目下の處村會分野關係と村政運用乃至周圍の事情から再選は頗る困難の立場にあり之が後任に田久彌七（政）草野三郎（民）若松美三（民）の三氏あり、村議十二名は草野兩氏が話題の人物であるが而も兩氏は同志の最高幹部で今回の縣議戦には確然たる立候補者とも目されてをり後任村長の決定は兩者の協調如何に左右され縣議戦を目前に接へての興味ある問題として注目されてゐる

科料の代りに
留置場入り
平署でも重寶

石城郡内郷郡大字宮字鬼ヶ澤飲食店會我トキ方酌婦武田ミチヱ（二六）は無鑑札で營業した爲科料を言渡されたが不景氣で納められぬと十三日留置場入りを申出たので平署では幸ひとばかり洗濯やら針仕事をさしてゐる。殊に獨身者の所在地受持連熊々下宿からシャツやら襦袢やらを持つて來る始末で非常に重寶がられてゐる。

赤井の放火犯人
平署留置場で急死

石城郡赤井村小田炭礦飯場頭同村字沼ノ作新田友治方に七月二十七日放火した犯人は小田炭礦坑夫西白河郡西郷村生れ隅清作（三五）と判明十四日平署に捕はれ取調べ中であつたが、十七日午後八時頃平署留置場内で急死したのを間もなく署員が發見大騷ぎとなり大森醫師を招ぎ應急手當を施したが蘇生しなかつた診斷の結果腦溢血と判明死体は飯場頭に引渡した。

同人は小田炭礦で働いてゐるうち五月二十二日坑内で右手を骨折し七月二十二日退院した後飯場頭新田友治に對し公傷患者とする事を賴んだが拒絶された上同日解雇されたので憤慨し二十七日新田方に放火したものである。

▲溺死少年を救助

石城郡山田村消防手大平總吉（二七）は去月二日午後二時頃錦村地内鮫川で溺死せんとした少年を救助したので知事から表彰された。

豐間の發動機船
暗礁に乘り上ぐ

石城郡豐間村大字豐間字原町鈴木末松所有六馬力發動機船が十八日午前三時半頃豐間港を出帆し漁場に向ふ途中薄磯海岸沖合で濃霧のため暗礁に乘り上げ船主鈴木末松は擦過傷を負ふた、豐間漁業組合員、青年團員、消防組員等出動し六時半救助作業を終えたが損害二百圓であるとする。

磐城炭礦で
出水豫防策

石城郡内郷村磐城炭礦綴坑では排水費節約のためこの程坑内の温泉噴出口に六千樽のセメントを注入し完全に充塡したが炭礦としては今後せきとめられた温泉が何等かの機會において地盤の弱い所を破り坑内のどこへ噴出するかも知れないので危險のおそれあり、よつてその危險除去策として目下ボーリングをおろし温泉を地上に誘導噴出せしむべく作業中だが右は常磐の炭礦における初めての試みであり果たして成功するか何うか成行きを注目されてゐる。

稲の出穂
例年より遲い

石城郡下における水稲は例年早稲種で今月十二、三日晩生種で二十日前後に出穂することゝなつてゐるが、今年は天候不順から早稲、晩生共出穂は一週間位おくれてゐる。

四倉で青年流ところ
小名濱では幼兒溺死
海水浴場の出來事

▲平町一丁目雜貨商田口文平長男田口博十九は十八日午前十一時十分頃四倉海岸に海水浴に行き水泳中激浪に浚はれ行衛不明となつたので大騷ぎを演じたが救助船が出動救助した。

×

▲石城郡小名濱町字古港一四三番地新三郎長男瀧新（七ッ）は十四日午後零時半同町字榮町漁業組合前海岸で水泳中溺死した。

夏井青訓生
耐熱行軍

石城郡夏井村青年訓練所生三十名は在郷軍人分會員二十名と共に十九日午前八時同村小學校に集合し笹輪村高野鑛泉まで五里の耐熱行軍を行ひ一泊して歸村する。

成績の好い
勿來養鷄組合

石城郡勿來町養鷄組合では青森國立種鷄場に産卵能力檢定試驗の爲め昨年十一月より單冠白色レグホン種を出陳してゐるが七月迄の産卵數は二十八號鷄二百二十一個で全國出陳鷄の第二位を占めてゐ、第一位は北海道上川郡永山村田黒納壽氏の九號鷄二百二十二個で一個を越してゐるが此の程通知になつたのによれば八月中は勿來鷄が一個を超過するに至つたので期限の十月十五日迄には悠に二百九十個は突破すべく今後支障なき限り昨年度に於いて一ヶ月支障あつた第三位を獲得したので、第一位に入賞するは疑ひないところで本縣は勿論東北の誇りとなる譯で非常に興味と期待とを抱かれてゐる。

▲泥醉者檢束

自稱好間大字下好間古河炭礦使用人鈴木始（一八假名）及び平窪村大字中平窪古河炭礦坑夫會田甚平（二〇）の兩名は十六日夜十一時半頃平町南町を泥醉徘徊通行人に暴行を働いたので警戒中の平署員に檢束された。

難波醫院で
七夕祭り

平町大町難波醫院では來る二十日舊七月七日で七夕祭に當るので華やかな飾物をする計劃で準備中であつたが、本年は金銀の鶴千羽を吊すといふので一般から期待されてゐる。

この暑さ
二三日續く
小名濱測候所觀測

平地方は數日來暑氣が續き十七日正午には九十六度で本年最高の温度、全國でも二三番の暑さであつたが小名濱測候所の觀測によると二三日この暑さが續くであらうと。

▲川部村の鮎漁

石城郡川部村の鮎は一部好釣家に獨占されてをり余り知られてないので、これを一般に宣傳し東京方面からの好釣家にも紹介し來年よりは産卵期に禁獵し放流する等の計劃を立てられてゐるが目下非常に賑つてゐる。

時報文藝

詩二篇

▲愛のあることを
（淺草觀音所見）　飯舟

一錢銅貨で
幸福を祈る
慾深い善男善女よ
せめて頼むよ愛のあることを
路傍で乞食が飢えてゐる

▲悲哀

人と呼ばるゝ生を享け
生れざりせばと
生存を呪ふ心の
悲しみは人にのみあり
悲しみは人にのみあり……

平町人事

▲死亡

長橋町四七伊達郡伊達崎村郡内五郎（二八）、加賀泰三（五ッ）彌宣町四三宮城縣加美郡美石村片平三代子（一ッ）

川柳

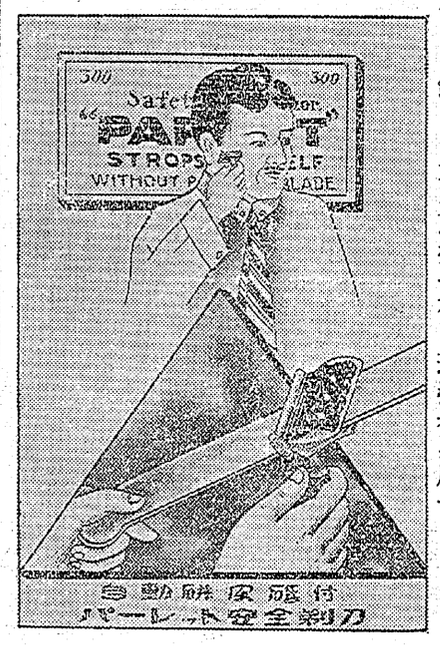
（七〇）川柳反古籠　同人吟

江別　遠藤　句樂

軍縮へ愛馬を撫でる眼がうるみ
足跡を殘してぬすと猫が逃げ
日締りにする氣小暗い中に出る
蝸牛端まで來れば引返し
瓜彈きへつける端唄の細い聲
嫁ぐ日を數へて急ぐ針仕事
途中からフト氣の變はる連れが出來
女房を連れて困つたのに出遇ひ
取止めた命二つが別に生き
泣き乍ら踊を習ふ貰ひッ娘
戯れて見る氣にもなる酔心地
凝たらしい樣子に被せる枕蚊帳

宣傳中半額割引
明日とゆわず今すぐ電六八〇番へ
パーレット安全剃刀　定價　金一圓八十錢
自動研皮砥付　半額割引　金九十錢
一枚の刃で永久に使用出來る
バリカン、剃刀は……土橋へ
詰かえホマード、クリーム、フケ取り香水は……芳香園
白衣と鏡……大小取揃へ有る理髮器具店へ

新案特許權　五一一五／二一五一／一二五一／三一五一／一一二六



開院（平町大町）（電話五〇二番）
難波醫院
醫學博士　難波睦
（入院需に應ず　自炊の便あり）
看護婦至急募集

外科　內臟外科
整形外科
外科一般
醫學士　松永憲一
院長　木村寅次郎
產科
婦人科
平町字新川町
木村病院
電話一六四番

ペトリン（うじころし）
東京衞生試驗所證明、殺菌殺蛆衞生消毒劑
◎……便所、塵芥箱、下水、汚物捨場、等不潔の場所に撒布して完全な消毒劑なり
特約販賣店　小野屋藥店　平町四丁目　電話百四十四番

平町田町（電話五一三番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科　レントゲン科

胃腸專門　內科　十二指腸虫病
極毒專門　淋病　婦人病　皮膚病
松村醫院　胃腸病　性病科
平町田町（電話一〇七）

海水浴ノ際ハ
是非御立寄リヲ願ヒマス
鐵道省指定旅館　海氣館
四倉新町電五番
貸切自動車ノ設備ガアリマス

暑中御伺ひ
磐城四倉
粗製一品料理　一心
電話七四番

外科　一般外科　內臟外科
性病科　X光線科
入院隨意（自炊の便あり）
元赤心堂病院跡
安齊外科醫院
電話四七五

貸切ノ御用命ハ
ゼヒ　三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は　好間・合戸澤渡・方面行

婦人用清涼着子供服と

婦人清涼着	子供服
四拾錢	拾錢
四拾五錢	四圓

ヤルツ

醬油と味噌
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部專用一〇番　一般用二二七番）
振替東京一九七五五番

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番